

大震災後の道路側溝

汚泥の現状は

国の事業方針確定後に除染する

三村 町は、震災のとき、放射能の問題があるとして、側溝の泥上げを禁止しましたが、5年6カ月経過した今でも解除していません。

して基準未達の側溝汚泥について、国費で除去する」と報道されましたが、現時点で国・県からは、具体的な提示はありません。町としても引き続き、国・県に撤去事業の具体化を要望し、国の方針確定後、速やかに取り組むために、事前調査を含めた現状把握、実施体制の準備、関係機関との連絡調整を図り組織体制づくり、事前準備を進めます。

いわき市では、国の対応を待たずに、自主財源で汚泥処理することしました。

道路側溝の、空間放射線量基準値0・23マイクログシーベルト未満の土砂撤去は、原発事故前は、各行政区との協働作業で行っていましたが、事故後は放射線の影響を考慮

これらを踏まえて、町の認識と方針、その対策、住民の健康問題としてどう考えているのか。

町長 7月29日付の福島民報で「環境省の方針と



みむら まさいち 三村 正一 議員



震災時の道路

町政を問う (一般質問)

小・中学生の学力の現状と向上対策は

学力向上対策推進会議を設置



少年の主張大会

三村 8月に開催された少年の主張大会で、本県は38、全国1位の秋田県は72と、偏差値で非常に差があるので、読解力向上を図るため、読書習慣を身に付ける決意を聞き、感動しました。現状の教育レベルは、他県や県内市町村と比べ、どのような状況か。全体の学力向上対策と個々のやる気の生徒に対し、どのように対応しているのか。

教育長 小中学校で年間3つの標準化テストを実施し、①全国標準テストは全校で全国平均とほぼ同じ②県下一斉テストは小学生で県平均とほぼ同じ、中学生は下回る③全国一斉学力テストは小6の国語、算数の基礎、応用問題とも全国平均とほぼ同じか、年度により若干上か若干下、中3の国語ではほぼ同じ、数学の応用問題で下回りました。

平成19年度から矢吹町学力向上対策推進会議を設け、各幼保小中、光南高校を含めた教員研修や、ブリティッシュヒルズ研修、夏期講習会、中学生への教科検定試験料の半額助成などを行っています。

その他の質問事項
健康な町づくりについて